

令和4年度 第1回学校運営協議会評価報告書

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

学校長 牧田 礼次郎

評価日	令和4年6月24日（金）
評価・提言	学校の所見・改善策
1 目標設定について ※学校経営方針について 「職業的自立、主体的社会参加、社会貢献ができる人材を育てる」 2 評価項目と目標達成のための取組について ※評価項目について ・職業人としての基礎的な力の育成 ・地域社会とつながりながら生きる力の育成 ・働きやすい職場、一人一人が成長できる組織づくり ○授業改善（～「考える力」をつける～） ・考えるということを、他者との関わりの中で深め、形づくられているのに驚いた。学校での学びを生活面でも活かされているのが重要だと思った。 ○啓発・広報活動の工夫 ・地域や企業との関わりを持つするには、まず知ってもらうことが大事。授業の様子等をどんどん発信してほしい。 ・保護者としては、フェイスブックで写真等を見せてもらえることは、子どもの表情も見られ、そこから子どもの気持ちなどが伝わり、安心できる。 ○働きやすい職場づくり ・子どもにとって先生の実存は大きく、よりよい教育を実現するためにも、先生方の労働環境を整えるように考えてほしい。 ・特別支援教育に関わり、若い先生方もやりたいことがあれば、認めてその芽を育ててほしい。	○働くことを通して、「誰かの喜び等を実感できる」「社会とのつながりを実感できる」教育を実践したい。それを実現するための学校経営方針・目標設定としている。 ○卒後の課題を見据え指導していくことの必要性を感じている。今年度は普通教科を中心に対話の場面を多くつくりたい。 ○フェイスブックの活用については、本年度は学部だけでなく、寄宿舎等でも環境を整備し、情報発信できるようにした。写真等を通して、家庭での会話のきっかけにもなってほしい。現場実習や定着支援の情報発信に関しては、考慮すべき点について継続して検討した上で実現させたい。 ○長年勤務している教職員の人事異動もあり、継承と拡張が課題。時間外勤務の縮減等と併せ対応しているところ。生徒・教職員共に尊敬し合える関係を大切にしたい。

3 具体目標について ○一般就労の促進 ・一般就労は自力での生活を実現するための安心要素。引き続き取組を進めてほしい。 ○自治的活動の推進 ・募金活動や清掃活動等で地域の方と一緒に活動している姿を見ている。それらの姿が社会性につながっており、今後も継続してほしい。 4 目標達成のための具体方策について ○地域との連携、啓発・広報活動 ・地域とのつながりを持っていく時には、その地域での代表的な方からパイプを持つようにするとよい。いろいろとつながりがあると、活動も広がりやすくなる。 ・フェイスブックは地域・企業等への情報発信の手法の一つ。ぜひ、継続してほしい。 ・ことカフェは、地域の方を含め、卒業生にとっても寄りやすく、在校生も先輩の姿を見ることができ、今後の励みともなる。 ○働きやすい職場づくり ・フェイスブックは、できる人だけがやるのではなく、誰でも担当できるよう仕組み化、分散化していくことが大事。 5 その他 ・学校にいる時には、相談できる場所（人）があったが、社会に出たらそれは難しい。社会に出たときに子どもを任せられる人や場所、相談できる場所がほしい。また、就労した時、保護者の小さな悩みを会社の人と相談や意見交換出来る場所があるとうれしい。	○新型コロナウイルスの影響で現場実習が十分にできていないが、引き続き取組んでいきたい。 ○生徒会活動を中心に、生徒総会、委員会活動、部活動等に取り組む。創立10周年にあたり、10周年記念式典の中に、生徒が活躍する場面をつくるよう計画している。 ○引き続き、フェイスブックやマスメディアを利用した情報発信や地域とつながる活動の取組を推進していく。(例：大山乳業とのコラボレーション等) ○フェイスブックの仕組み化、分散化を進めていく。 ○学校だけでなく、社会の課題でもある。その思いを共有できたのは有意義であり、引き続き学校も関係機関に状況を伝えていきたい。
---	---